

私たちが今できる図書館づくり — 活動を振り返って —

山口大学図書館
学生協働

私たちにとって理想の図書館とは？

利用しやすく、知りたいことに辿り着ける場所

カウンター業務

- レファレンス
 - 本についての質問
 - 論文検索などデータベースの活用サポート
- 本の貸出・返却のサポート
- 情報共有（日誌）



- 積極的な姿勢やコミュニケーション能力が身に付いた
- 図書館の仕事を知ることが出来た

利用者へのサポート

- 利用者の分からないことや、求めていることをうまく聞き出せず、適当な答えを返せなかった
- 「利用者教育」が十分でなかった

新しい図書館WG

- OPAC横
メモをした紙を捨てるための、小さな箱の設置
- コピー機横
損じ紙を入れるためのかごの設置
- りぶレスト改装



- 職員からの意見をもらうことで、新しい気づきがあった
- 活動をとおして、利用者の声を聞くことが出来た

目的意識・意見交換

- WG外のメンバーとの情報共有、意見交換が不十分だった
- 「こうしたい」という軸が固まっていないうまま活動してしまい、周りの意見に流されてしまったところがあった

展示系WG

企画展示WG・就活コーナーWG
絵本コーナーWG

- 設定したテーマに沿った図書を展示
- POPの作成
- ブックハンティング | 就活コーナーWG



- POP作成を通して、自分の思いを端的に相手に伝える能力が身に付いた
- コーナーをどういうものにしていきたいかを考えることが出来た

新しい取り組みを

- 学生の興味をひきつける展示ができていなかった
- 今までにない新しい目線の展示をすることが難しかった

より利用しやすい図書館を作っていくために

利用者へのサポート

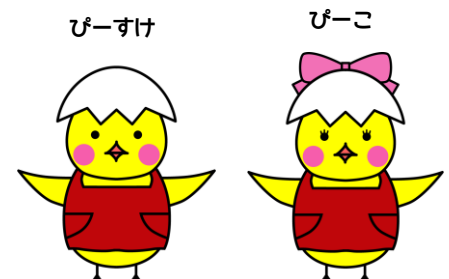
- 気軽に頼ってもらえるようなカウンターづくりのために、周囲にアンテナをはって利用者への声掛けを心がける
- OPACの使い方を次から自分で使えるように案内するなど、利用者自身が図書館を活用できるように促す（利用者教育）
- 利用者にとってプラスになる情報の案内（卒論貸出・データベース・山口県内図書館横断検索など）

新しい取り組み

- OPACなどの情報検索システムの改善点を提案し、職員とよりよい形を考える
- 本を借りた利用者にバックを貸し出すなど、利用者のための取組みを考える
- パスファインダーの作成

学生協働メンバーとの意見交換

- WG日誌やLA勉強会、ワールドカフェなどの学生協働内で意見交換できる場所を増やす



「求めていることに辿り着ける場所」「情報を得る方法を学べる場所」を目指し、より利用者が使いやすい図書館にしていくために私達は日々活動をしています